

都市整備

市は都市計画や災害復旧に備え地籍調査を進めるべき

常松大介議員(フオ) ①地籍調査の固定資産税評価における効果や、都市計画や大規模災害の復旧時における効果は、
②地籍調査を実施した場合、想定される市の費用負担は、
③どのように進めていくか。

市長 ①前者は課税地籍が現況に即したものととなり、より正確な課税ができる。後者は土地の権利関係が明確となり、境界の正確な復元が可能となる。
②市全域を調査した場合、事業費は約40億円で国が50%、都が25%、市が25%負担する。
③市内の土地利用や、他市の状況等を研究していきたい。

小川駅西口再開発と周辺のまちづくりについて
佐野郁夫議員(政和) ①事業の進捗状況は、
②富士見通りと小川西保育園通りの交差点に横断歩道を設置できないか。
市長 ①準備組合では、平成21年5月の通常総会で事業計画案が承認され、その後、理事会で



富士見通りと小川西保育園通りの交差点

スケジュールや事業推進体制づくりの方法等を検討している。
②現在、緑成会病院前と二中通りの交差点に横断歩道があるが、これは保育園方面から小川駅、二方面への動線の確保と間隔を考慮して設置したもので、指摘の交差点への設置は難しいと警察署から聞いている。

総合的な公共交通網の計画を示してほしい
佐藤 充議員(共産) ①コミユニティタクシーの運行状況は、
②今後、総合的な公共交通網の計画を示していくことが必要と思うが見解は、
市長 ①9月の運行開始から11月13日までの延べ40日間で、総乗車人数は2千2百36人、1日平均55・9人の乗車があった。
②実証実験運行へ向け、運行ルートの検討に入っている。今後は事業者の選定、関係機関との調整、国への実証実験運行申請、PR等を進めていきたい。

小川・栄町地域コミュニティタクシー及び公共交通について
佐野郁夫議員(政和) ①コミユニティタクシー(大沼ルート)の利用状況は、
②小川・栄町地域コミュニティタクシーを考える会の検討状況と今後の見通しは、
市長 ①延べ40日の運行で総乗車人数は2千2百36人、1日平均55・9人の乗車があった。

平均乗車人数は55・9人である。
②計画策定の予定はないが、市の公共交通に対する基本的な考え方に基づき、コミュニティバス等については各地域の実情を踏まえながら実施に向けた検討を進めている。
小川・栄町地域コミュニティタクシー及び公共交通について
佐野郁夫議員(政和) ①コミユニティタクシー(大沼ルート)の利用状況は、
②小川・栄町地域コミュニティタクシーを考える会の検討状況と今後の見通しは、
市長 ①延べ40日の運行で総乗車人数は2千2百36人、1日平均55・9人の乗車があった。
②実証実験運行へ向け、運行ルートの検討に入っている。今後は事業者の選定、関係機関との調整、国への実証実験運行申請、PR等を進めていきたい。

教育・文化

不登校の子どもとその保護者が孤立しないための支援を求む
岩本博子議員(生ネ) ①不登校の児童・生徒数は、
②不登校の子どもとその保護者が孤立しないための対応は、
③現在、研究段階として1人配置されているスクールソーシャルワーカーを増員する考えは、
教育長 ①平成20年度は小学校51人、中学校124人である。
②担任が家庭訪問をするなど定期的に連絡をとっている。また、スクールカウンセラーを小中学校全校に派遣し、児童・生徒、保護者からの相談を受け

放課後子ども教室推進事業の検証について
常松大介議員(フオ) ①学校、生涯学習推進課、実行委員会の関係性は、またコーディネーターの位置づけは、
②地域の協力者から出された要望の取り扱い、
③目的は果たされているか。
教育長 ①学校は施設の利用協力を中心し、生涯学習推進課は予算や研修等を、実行委員会は企画や学習アドバイザー

放課後子ども教室など子どもの居場所は今後どうなるのか
立花隆一議員(公明) ①放課後子ども教室推進事業の3年間の評価と課題は、
②児童クラブと放課後子ども教室との連携は、
教育長 ①10校まで広がり、運営も円滑でよい評価であった。課題は未実施校でのボランティアの状況の把握やコーディネーター等の確保などである。
市長 ②児童クラブの児童も参加しやすしい環境を整えるため、コーディネーターと児童クラブ指導員との十分な連携を図って

小平の特別支援教育について
木村まゆみ議員(共産) ①特別支援学級の現状は、
②開設に当たって現場との調

の確保等を行っている。コーディネーターは教室を円滑に実施する調整役と位置づけている。
②事業全般については事務局で、地域に関するものは実行委員会等で検討する。
③健康で心豊かに育つ環境づくりに大きく貢献している。

整は十分図られているか。
③中学校にも介助員が必要と考えるがどうか。
教育長 ①入学・転学希望が増加しているが、設置を進めているため適正な教育環境が確立されていると考えている。今後も適正な配置に努めていく。
②学級の設置場所や学区、備品等の購入など、校長と事前協議の上調整を行っている。
③必要性を指導体制や生徒の状況等から研究していく。

発達障がい児のニーズにこたえた特別支援教育になっているか
立花隆一議員(公明) ①個別指導計画作成への支援は、また、支援計画の検討は、
②特別支援教育支援員の必要数と人件費の試算は、
教育長 ①様式例を学校に示し、相談員が指導・助言を行っている。支援計画は、今後策定予定の中で検討したい。
②市立小・中学校全27校に1人配置すると週5日、年間40週、1日6・5時間勤務とし、単価を950円で試算した場合、人件費は3千3百34万5千円となる。

山岸真知子議員(公明) ①大会の現在までの検討状況は、
②市民総合体育館周辺の自治会、商店会などの協議は、
教育長 ①平成22年夏に開催都道府県等が正式決定されるが、全体の会期は25年9月中旬から10月中旬の11日間の予定である。市内では成年女子バレーボール競技が市民総合体育館で2日間、

小平の特別支援教育について
木村まゆみ議員(共産) ①特別支援学級の現状は、
②開設に当たって現場との調

計7試合予定されている。
②市の準備委員会・実行委員会の下部組織として複数の専門部会を設置し、地元の意見、提案や協力等の協議を行う予定である。
小平の学校ピオトープを進めるために
平野ひろみ議員(生ネ) ①維持管理はどう行っているか。
②ピオトープによる学習が子どもや教師に与える影響は、
③地域の人々とのつながりや協力者をどう継続させていくか。
教育長 ①学校や地域ボランティアにより維持され、市も資器材提供や補修等を行っている。
②自然体験活動を行うよい機会となっており、環境への興味や関心につながると考える。
③今後も学校が中心となり、協力者等との関係を継続していくことが大切と考えている。

小・中学校の備品の管理について
石毛航太郎議員(フオ) ①交換、譲渡手続きの方法と実績は、
②備品管理上の課題は何か。
③こげらネットのリユース掲示板の利用状況は、
教育長 ①伝票で処理をしており、コピー機の所属がえを昨年

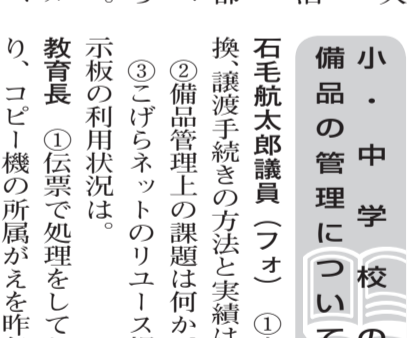
小・中学校の備品の管理について
石毛航太郎議員(フオ) ①交換、譲渡手続きの方法と実績は、
②備品管理上の課題は何か。
③こげらネットのリユース掲示板の利用状況は、
教育長 ①伝票で処理をしており、コピー機の所属がえを昨年

度は3台、本年度は1台行った。
②使用頻度が様でない物があること、また数や種類が膨大なことから現状を上回る活用は難しいと考える。
③平成15年度に開設したが、本年度の活用はない。今後も学校に周知し活用を図りたい。
小平第十五小学校耐震補強工事での国庫補助の返還等について
西 克彦議員(共産) ①工事内容と過大見積り経緯、返還金の概要は、
②過大見積りの原因は、
③今後の改善のための課題は、
教育長 ①校舎の耐震補強材となる鉄骨ブレース取り付け工事費の積算において、固定用の無収縮モルタル用型枠の所要量を適正数量の2倍の長さで積算したため生じた。返還金額は百82万5千円で実績報告書の再提出後、返還命令書と納付書が送付されてから返還を行う。
②市担当者や設計業者との確認が十分でなかったことである。
③設計委託をした場合の成果品の確認や設計業者に対する指導及び確認体制と考える。

小一プロブレムなどに
対応するため副担任の設置を
宮寺賢一議員(政和) ①小一プロブレムの事例はあったのか。
②1・2学年に独自に副担任を設置しては、
教育長 ①全小学校から小一プロブレムという授業が成立しない状態が数か月継続する状況までにはなっていないとの報告を受けているが、約半数の学校で短期間学級経営が困難になるなどの状況があった。学級担任の

これからの小平市の教育行政を問う
島村速雄議員(政和) ①民主党政権はこれまでの教育施策を大きく変えようとしているが、市の教育をどのように進めるか。
②都教育長からの校庭芝生化の依頼を断った理由は、
③国や都の事業導入に対する後ろ向きの発言は、学校教育に大きな損失を招くのでは、
教育長 ①これまでの市の教育を大切に、発展させることを基本に取り組んでいきたい。
②維持管理等に課題があり、慎重に対応したいと回答した。
③後ろ向きの発言をしたことはない。

これからの小平市の教育行政を問う
島村速雄議員(政和) ①民主党政権はこれまでの教育施策を大きく変えようとしているが、市の教育をどのように進めるか。
②都教育長からの校庭芝生化の依頼を断った理由は、
③国や都の事業導入に対する後ろ向きの発言は、学校教育に大きな損失を招くのでは、
教育長 ①これまでの市の教育を大切に、発展させることを基本に取り組んでいきたい。
②維持管理等に課題があり、慎重に対応したいと回答した。
③後ろ向きの発言をしたことはない。



学校ピオトープ(小平第六小学校)

度は3台、本年度は1台行った。
②使用頻度が様でない物があること、また数や種類が膨大なことから現状を上回る活用は難しいと考える。
③平成15年度に開設したが、本年度の活用はない。今後も学校に周知し活用を図りたい。
小平第十五小学校耐震補強工事での国庫補助の返還等について
西 克彦議員(共産) ①工事内容と過大見積り経緯、返還金の概要は、
②過大見積りの原因は、
③今後の改善のための課題は、
教育長 ①校舎の耐震補強材となる鉄骨ブレース取り付け工事費の積算において、固定用の無収縮モルタル用型枠の所要量を適正数量の2倍の長さで積算したため生じた。返還金額は百82万5千円で実績報告書の再提出後、返還命令書と納付書が送付されてから返還を行う。
②市担当者や設計業者との確認が十分でなかったことである。
③設計委託をした場合の成果品の確認や設計業者に対する指導及び確認体制と考える。

小一プロブレムなどに
対応するため副担任の設置を
宮寺賢一議員(政和) ①小一プロブレムの事例はあったのか。
②1・2学年に独自に副担任を設置しては、
教育長 ①全小学校から小一プロブレムという授業が成立しない状態が数か月継続する状況までにはなっていないとの報告を受けているが、約半数の学校で短期間学級経営が困難になるなどの状況があった。学級担任の

これからの小平市の教育行政を問う
島村速雄議員(政和) ①民主党政権はこれまでの教育施策を大きく変えようとしているが、市の教育をどのように進めるか。
②都教育長からの校庭芝生化の依頼を断った理由は、
③国や都の事業導入に対する後ろ向きの発言は、学校教育に大きな損失を招くのでは、
教育長 ①これまでの市の教育を大切に、発展させることを基本に取り組んでいきたい。
②維持管理等に課題があり、慎重に対応したいと回答した。
③後ろ向きの発言をしたことはない。

これからの小平市の教育行政を問う
島村速雄議員(政和) ①民主党政権はこれまでの教育施策を大きく変えようとしているが、市の教育をどのように進めるか。
②都教育長からの校庭芝生化の依頼を断った理由は、
③国や都の事業導入に対する後ろ向きの発言は、学校教育に大きな損失を招くのでは、
教育長 ①これまでの市の教育を大切に、発展させることを基本に取り組んでいきたい。
②維持管理等に課題があり、慎重に対応したいと回答した。
③後ろ向きの発言をしたことはない。